

[専門教育科目/看護の展開/在宅看護学]

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護援助論 I	NSP22_009	必修	1	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊 美樹	303	m-watanabe	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	地域包括ケアシステムの推進が図られる中、療養する人々の生活は、地域・在宅において多様化している。そこで本科目は、在宅における看護を実施するために必要な知識と技術・態度を学習することを目的とする。具体的には、訪問に際して必要な知識と技術、在宅における日常生活支援と医療処置管理に関する知識と技術等について学ぶ。授業は原則として遠隔 (Teams) とするが、初回と最終回は対面とする。授業中のチャットやリアクションペーパーにて教員への質疑を行い、教員からの助言を受け、在宅看護に関する理解を深めていく。				
学習上の助言	地域在宅における看護の役割は何か、授業内で提示する在宅療養者の生活をイメージし、療養者がその人らしく暮らせるような看護師としてのかかわり方を積極的に考え、学んでほしい。				
教科書	ナーシング・グラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア (第6版) /著: 臺有桂 他/メディカ出版/2019				
参考書	ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (第1版) /著: 臺有桂 他/メディカ出版/2018				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	在宅看護に興味を持ち、主体的に学習できる	NS(1)、(5)			
②	在宅看護が実施される場をイメージし療養者と家族の生活を把握する方法を説明できる	NS(1)、(2)、(3)			
③	訪問する際の準備や心構え、マナーを理解し実演できる	NS(1)、(2)、(3)			
④	在宅療養者と家族への日常生活援助のアセスメントができ援助方法を説明できる	NS(1)~(5)			
⑤	在宅療養における看護師の役割を説明できる	NS(1)~(5)			
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1・2	・在宅療養の場や対象の特性などを学習する ・訪問する際のマナーや心構えを学習する	講義・演習	復習: 演習ワークの振り返りと学びをまとめる	2	
3・4	・訪問看護の制度や仕組みを学習する ・在宅看護における健康危機管理を学ぶ	同時双方向型授業	予習: 介護保険制度について学習 復習: 授業内での学びをまとめる	2	
5・6	・視聴覚教材を用いて、在宅療養支援場面を知る	同時双方向型授業	復習: 授業内での学びをまとめる	1	
7・8	・在宅での日常生活支援を学ぶ (栄養・食事)	同時双方向型授業	予習: 事例に関連した事前学習 復習: 授業内での学びをまとめる	2	
9・10	・在宅での日常生活支援を学ぶ (排泄)	同時双方向型授業	予習: 事例に関連した事前学習 復習: 授業内での学びをまとめる	2	
11・12	・在宅での日常生活支援を学ぶ (清潔、移動)	同時双方向型授業	予習: 事例に関連した事前学習 復習: 授業内での学びをまとめる	2	
13・14	・在宅医療処置に関する看護を学ぶ①	同時双方向型授業	予習: 事例に関連した事前学習 復習: 授業内での学びをまとめる	2	
15	・在宅医療処置における看護を学ぶ② ・まとめ	講義・演習	復習: 授業内での学びをレポートにまとめる	2	
試	レポート試験 達成度評価・評価ポイント参照				

[専門教育科目/看護の展開/在宅看護学]

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	60	20	10	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	20	5	5	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	5	5	10
問題を発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	予習では各授業に必要な知識や認識を整理し授業に臨む。また、復習では授業からの学びをまとめる。これらの予習→授業→復習を通して、在宅看護技術の特徴を考察し、最終レポートを提出する。毎回の予習・復習課題及び最終レポートにて知識や思考力の評価を行う。			各授業にて提出された課題に対して、情報や知識の不足があれば、適宜、補足説明を行う	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	対面授業では、短時間の演習と成果発表を行う。また、遠隔授業でも発言を求めるなど学生参加を促し、課題に取り組んだ成果を発表する機会を持つ。			演習・成果発表において講評を行う	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	在宅看護学に興味を持ち、積極的・主体的に授業に取り組む姿勢を評価する。学生は、初回授業で配布する「演習ガイド・記録用紙」に従い、課題に取り組む、学びを整理していく。復習として教科書や資料を見直し学びをまとめる中で、学習への意欲や自己の課題を明らかにし「演習ガイド・記録用紙」を提出する。			コメントを記入し返却する	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	全日程の出席を前提とする。理由のない欠席は授業への取組み姿勢・意欲の不足と捉え、評価に影響する。			欠席が続く場合は指導を行う	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備考							
1.2回・15回は対面授業を行います。大学が公表している感染対策及び教員が示す授業方法を遵守してください。また、3~14回の授業は Teams を使った同時双方向型授業を行います。その際、視聴覚教材を用いた授業では通信容量が大きくなります。通信容量が無制限の Wi-fi 環境を推進します。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更が生じる可能性があります。							
この科目は、担当教員が市町村における行政保健師活動および訪問看護活動等の経験を元にして、病院から地域への療養移行支援から在宅療養支援の実践事例を交えて授業を進めます。							